
編集後記

近年、医療介護の連携・協力（Cooperation）の重要性が叫ばれている。当研究会開催の研究会でもその話題を取り上げる頻度が高く、本誌でも特別寄稿として「連携」に関する話題をご提供頂いた。

情報のやりとりが「連携」であると認識される傾向があるが、本質的には複数の人間が共有化された目的を持ち、その目的達成のために取り組む相互関係が「連携」である（吉池ら）ことに鑑みると、医療と介護に関係する人間が互いに共有化された目的を持っているであろうかと疑問に感じる。

我々が対象とするのは、様々な疾病や加齢などを理由に人生の再構築を必要とする方々であり、それを実現するための取り組みの全過程が **rehabilitation** である。目的は対象者によって異なり、**rehabilitation** は十人十色であるはずである。

Rehabilitation が「連携」のための共有化された目的とならぬよう、「連携」に関わる全ての人間は“何が目的なのか”という当たり前の自問をするべきではないかと強く感じる。

令和 5 年 1 月 26 日

京都在宅リハビリテーション研究会 世話人代表 木村篤史

京都在宅リハビリテーション研究会誌

第 16 巻

令和 5 年 2 月 23 日 発行

編集者

京都在宅リハビリテーション研究会事務局

（木村篤史，永山智貴，小西倫太郎，神田佳明，森川重幸，堀田直樹，
浅野翔平，村富渚，増馬裕太郎，川勝紅葉，高屋真奈）

発行者

木村 篤 史

〒629-0392 京都府南丹市日吉町

明治国際医療大学附属病院 総合リハビリテーションセンター

Tel 0771(72)1221